2026 年 11 月 10 日

～毎月 10 日は人権を考える日～

人間は生まれながらにして人間である

今から 30 年ほど前に、俳優の山城新伍（やましろしんご）さんが自身の著書「現代・河原乞食考（かわらこじきこう）」をもとにした映画「本日またまた休診なり」を自身の主演・監督で制作されました。制作にあたっては、父親への尊敬の念を込めて作ったということと、戦後の京都をできるだけ忠実に描きたかったとのことです。

山城さんが育ったのは京都の千本（せんぼん）という所で、代々、醤油の醸造元でしたが、父親は家業を継がず医者になったそうです。その周辺には被差別部落や在日韓国・朝鮮人の方々の集落があったそうです。お父さんは、雨の日も風の日も往診に行き、誰かに何かあれば、夜中でもすぐに出かけていくような医者で、「いつか身体をこわすぞ」と言われていたそうです。治療代が払えない患者さんから、代わりに米や野菜をもらってくることも度々あったようです。そんな貧乏な父を見ていたから、こんなに割に合わない仕事はないと思って、医者になる努力もしなかったと語っています。そんな父の葬式に、実にたくさんの人が集まってびっくりしたそうです。生きていた頃は分からなかったけれど、「親父っていうのは偉い人だったな。」と思い、記録に残しておきたいと思って映画を作ったとのことです。

被差別部落に生まれた友人から悩みを打ち明けられたことや、被差別部落出身の子との恋愛を親に反対されたり、泣く泣く別れたりした友人もたくさん見てきたそうです。病院に来る患者さんも、被差別部落の人や在日韓国人・朝鮮人が多かったそうです。あるとき、患者さんの名前を呼ぶのを聞いて、聞き慣れない民族名の語感が面白くて笑ったことがあったそうです。そしたら、「その国の人たちの誇りであり、文化である言葉や名前を、ただ面白いという理由で笑った」と、さんざん殴られたそうです。普段はめったに怒らない人だったけれど、差別的な発言をしようものなら、ものすごい勢いで怒られたそうです。

その父親が語っていた言葉です。「人は生まれながらにして平等であるという言葉があるが、それは嘘だ、建前論だ。世の中を見てみい、この資本主義の社会の中で、生まれた環境といい、受ける教育といい、才能といい、皆それぞれ違う。人間は生まれながらにして平等なんかじゃない。人間は生まれながらにして人間である。故に平等でなくちゃならんのだ。」と絶えず語っていたそうです。

この言葉を読んだときもそうですが、差別事象が起こるたびに思います。「人間は生まれながらにして平等である」というのは違う。やはり、「生まれながらにして人間である。だから、平等でなければならない」が正しいのだと。

（参考：公益財団法人 東京都人権啓発センター　TOKYO 人権 第 12 号）

西条市人権教育協議会　　西条市人権共生課